

第2学年 算数科学習指導案

1 単元名「長いものの長さのたんい」

2 指導の立場

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領の第2学年の内容「C (1) 長さやかさの単位の測定」に以下のように示されている。

(1) 量の単位と測定に関わる算数的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 長さの単位（ミリメートル (mm) センチメートル (cm)、メートル (m)）及びかさの単位（ミリリットル (mL)、デシリットル (dL)、リットル (L)）について知り、測定の意味を理解すること。

(イ) 長さ及びかさについて、およその見当を付け、単位を適切に選択して測定すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力を身に付けること。

(ア) 身の回りのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり、比べたりすること。

大きさを数で表現して比べることについて学習してきた。

第2学年の長さやかさの学習では、児童が、ものの大きさについて普遍単位を用いて進んで表現したり、測定する対象の大きさに応じた適切な単位を選択したりして的確に伝えようとすることを大切にしている。

(2) 児童の実態

本単元に係わるレディネステストの結果

長さを30cmものさしで測る問題が正確に

測れていない児童が45%いた。また、測った長さが間違ったことが原因で、計算問題ができていない児童や、たし算かひき算かの判断を間違えて計算問題を間違えている児童が68%いた。

単位の書き換えはできているので、本単元

でも同じ単位同士でたしたりひいたりすることや、正確にたし算かひき算かを判断することの定着を図りたい。

3 研究内容との関わり

1. 導入の工夫

(1) 既習を生かした導入

デジタル教科書を使って、問題場面を視覚的に理解できるようにし、何算になるのかを考えやすくする。また、量感をつかむために、手など体を使って長さを表したり、実際の長さを提示したりする。

2. 課題追究の工夫

(1) 小集団での学び合いの活用

体を使って表現したり、ホワイトボードやノートに図を描いたりなど、様々な方法を使ってペアで思考させる。その活動を通して自分の考えを確かなものにしたり、ペアの考えを理解し自分の考えと比べたりするなどして、3年生からのトリオ交流の基礎を築く。

3. 終末の工夫

(2) 学びの定着

まとめの後に、教科書の問題に取り組み、学習の定着を図る。また、GIFU ウェブラーニングに取り組み、自ら学ぶ態度を育て、より「できた、分かった」という思いの実感につなげる。

4 単元指導計画 (単元名) 第2学年「長いものの長さのたんい」(11月) 全5時間

(1) 単元の見どころ

長い物の長さの測定の仕方や表し方を考え、長さの単位mやcmとの関係を理解し、1mものさしを用いて、長さを測定することができる。

(2) 本単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① m単位の必要性や $1\text{m}=100\text{cm}$ の関係を理解し、長さをmやcmの複名数で表したりすることができる。 ② m, cm単位で表された長さの加減の計算の仕方を理解し、長さの加減の計算ができる。	① 大きな単位を用いれば、長い物の長さを小さい数で表せると考えることができる。	① 身の回りの長さに進んで関わり、様々な場所の長さを測定しようとしている。

(3) 本単元までに身に付けてきた学習内容

【1年生】 ●ながさくらべとひろさくらべ ・かさくらべ	【2年生】 ●長さのたんい ・かさのたんい
--	------------------------------------

(4) 指導と評価の計画

※指導に生かす評価(●) / 記録に残す評価(○)

時	ねらい	本時の活用する学び	評価規準(評価方法)		
			知・技	思・判・表	態度
1 2	教科書 P158 の場面をもとにすることを通して30cmより長いものさしの必要性に気づき、長い物の長さに対する興味・関心を高め、本単元の学習の見通しをもつことができる。	・30cmものさしの読み方。 ・10cmは、1cmが10個分。		○①発言	・①発言
	長さの単位「m」を知り $1\text{m}=100\text{cm}$ の関係を理解することができる。比較的長い物を、mとcm単位で表すことができる。	・1mは10cmが10個分。	・①ノート	○①発言	

3	テープで1mの長さをつくったり,身の回りの物の長さを1mのものさしで測定したりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> • 1mは, 10cmが10個分。 		○①発言 ノート	• ①発言 ノート
4 (本時)	単位をそろえることに気付き,加減の計算をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> • 同じ単位どうしを,たしたりひいたりする。 • 1mは, 10cmの10個分。 	○② ノート タブレット	○① ノート 発言	
5	単元の内容について定着を確認し,理解を確実にする。 [確かめ問題]	<ul style="list-style-type: none"> • m, cm単位で表された長さの加減の計算の仕方が分かる。 	○①② ノート	○① ノート	
	単元の内容について定着を確認し,理解を確実にする。 [ペーパーテスト]		○①② ペーパーテスト	○① ペーパーテスト	

5 本時のねらい

単位をそろえることに気付き、加減の計算をすることができる。

6 本時の展開 (第4時/全5時間)

★授業のここ見て!

研究2 (1) 様々な方法を使って思考し合うペアでの学び合い。

研究3 (2) 自ら学ぶ態度と、学びの実感をもつための練習問題の時間の確保。

	学習活動	指導・援助
課題をつかむ	1 問題を確認する。 2 課題を確認する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 長さのけいさんのしかたを考えよう。 </div> 3 課題に取り組む。(全体⇔ペア)	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書に分かっていること、大切な数、キーワード、聞いていることを書き込み、確かめる。 手でどのくらいの長さか表して量感をつかむ。 実際の長さを見せる。 単位が同じcm同士だから、そのままたすことができることを確認する。 答えが100cmを超えているのでmの単位を使って表せることに気付かせる。 120cmは、10cmが12個分 問題場面を確認する際は、手で量感をつかんだり、図に表したりして、ペアで考えさせる。(体で表現) 困っているペアにヒントを話す。
考える	① 「みんなで考えよう」 <ul style="list-style-type: none"> キーワードが「合わせた」なのでたしざんです。 しきは、$80\text{cm} + 40\text{cm}$です。 $80\text{cm} + 40\text{cm} = 120\text{cm}$です。 ちがうあらわし方で、120cmは、100cmと20cmで、100cmは1mだからこたえは1m20cmです。 	
深める	② 「さらに考えよう」 <ul style="list-style-type: none"> 「1m10cmのぼう」をじめんにさすと「80cm」雪の上に出ている。つもっている雪は、ひき算で考える。 しきは、$1\text{m}10\text{cm} - 80\text{cm}$になるよ。 10cmから80cmはひけないので、1mを100cmになおして考えるといいよ。 $1\text{m}10\text{cm} = 110\text{cm}$ $110\text{cm} - 80\text{cm} = 30\text{cm}$ 答えは30cmです。 	
まとめる	4 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 1m=100cmのかんけいをつかって、けいさんすればよいことが分かった。 </div>	
	5 本時の学びを確かめる。 ⇔ 6①②に取り組む。 ① $90\text{cm} + 50\text{cm} = 1\text{m}40\text{cm}$ ② $1\text{m}30\text{cm} - 70\text{cm} = 60\text{cm}$ ・GIFU ウェブラーニングに取り組む。	
	6 本時の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> 1m=100cmをつかうことをおぼえたよ。 cmのたんいにそろえてけいさんするよ。 	

◆評価規準
(知識・技能)
m, 単位で表された長さの加減の計算の仕方を理解し、長さの加減の計算ができる。